

第19回ビジネス講座

「日本の交通政策における新モビリティサービス・MaaS活用の可能性」 ～国内外の事例紹介～ を開催しました！！

(関東運輸局)

関東運輸局交通政策部では、2017年10月より「関東運輸局ビジネス講座」と銘打ち、公共交通・観光・物流・バリアフリー等、運輸局の業務に関係する題材をテーマに外部より講師を招いて公開講座を開催しています。

2019年度の6回目、通算19回目となる今回は、「日本の交通政策における新モビリティサービス・MaaS活用の可能性 ～国内外の事例紹介～」と題し、モビリティジャーナリスト 楠田 悦子 氏にご講演いただきました。

講演では、ビジネスを取り巻く環境や、暮らしを支える技術やサービスの現状と変化、また、課題解決に向けてどのようにデジタルテクノロジーを活用して行くべきか、具体的な事例を交えてお話しいただきました。

公共交通・移動手段を取り巻く環境や、地域住民の価値観などがこの10年間で大きく変化し、課題を解決するためにデジタルツールをうまく活用して、サービスを組み立てる必要があるとのことで、自動車メーカーも車を作って売るだけではなく、移動サービスの提供を考える時代になるとのことです。

また、欧米では自転車の活用も進んでおり、電動キックボードや小型のモビリティなどの様々なモビリティを活用して行こうという流れだそうです。

また昨今、バスとタクシーの境目がなくなってきており、特にタクシーは配車システムなどのデジタル化が進むなど、大きく変わってきています。

バスについては自動運転などの実証実験が進んできてはいるものの、完全自動運転にはまだ時間がかかり、すぐに人手不足解消につなげるのは難しいとのこと。一方、経営企画・計画を作る人も時間もなく、情報の整理やICカードの活用ができていないとの悩みを抱えるバス事業者も多いとのこと。これからは運輸業からサービス業への転換をはかるべく、時代のニーズの変化に合わせて企画・人材育成ができるような体制を整えて行くことが課題、とのことでした。

また、フィンランドやスイス等の海外の事例や、国内各地で取り組まれている事例を具体的に紹介していただきました。日本のMaaSは、移動手段だけでなく、都市や福祉、観光等の周辺サービス全体を繋げて利便性を高めようという特徴があり、各種データを使って様々な分野のサービスが協働することを考えて行く必要がある、というお話がありました。

今後新モビリティサービスを導入・推進しようと考えている自治体や事業者にとって、先進事例やMaaSの考え方を聞くことができ、大変参考になったのではないかと思います。



【今後の開催予定】

次回の第20回ビジネス講座は、2月6日（木）15：00～「自動運転の現状と今後の進展」～バスの実証運行から見えてくる課題と展望～と題し、前橋市政策部 交通政策課 地域交通推進室 副主幹 南雲 貞人 氏、相鉄バス（株） 企画・安全部長 本岡 利之 氏、S Bドライブ（株） 代表取締役社長 兼 CEO 佐治 知基 氏 にご講演いただきます。

詳細及び参加申込みのご案内につきましては、開催日の3週間前を目安に関東運輸局ホームページに掲載いたしますので、ご覧下さい。

＜関東運輸局 ビジネス講座 URL＞

http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_seisaku/business/index.html